

日本とドイツのオリンピックメダル獲得数に違いをもたらす最大決定要因について Discovery a greatest decision factor of bring a difference to the number of Olympics medal acquisition of Japan and Germany

1K03A059-4

河村守彦

主査 中村好男 先生

副査 石井昌幸 先生

1. 緒言

2006 年冬季トリノオリンピックにおいて日本は荒川静香選手の 1 個の金メダル (世界 21 位) のみで幕を閉じた。一方のドイツは 29 個を確保している (世界 1 位)。また現在までのメダル総獲得数でも 299 個で世界 1 位である (日本は 13 位)。

日本とドイツには様々な共通点がある。人口、国土面積、歴史背景、GDP 値と簡単にあげても多く存在する。

本論文では、少しでも共通点のある国と日本を比較し、ドイツと日本のメダル獲得数に違いをもたらす最大決定要因を見つけ出す事を目的とする。

2. 旧東西ドイツと日本におけるスポーツ環境

①東ドイツ<ドイツ民主共和国>

オリンピックを国威発揚の道具とし、社会主義国の優位さを世界に示す最も効果的な方法として使用した。その為、国家的な管理的スポーツ政策を推進し、トップ選手に対する保護を手厚くするような施設を作る事で、スポーツ大国となったのである。

②西ドイツ<ドイツ連邦共和国>

DSB(1950 年)を中心として、東ドイツや日本のような「トップのみの政策」ではなく、「底辺(クラブスポーツ)とトップ(競技スポーツ)」の両立を実現している。1960 年代には「ゴールデン・プラン」に基づき、日本とは比較にならない市民のためのスポーツ施設が完全提供され、1970 年代には「スポーツ・フォア・オール作戦」を掲げ、施設整備だけではなく「総合社会政策」的な性格を持つようになる。

③日本

1940 年代、敗戦した日本は米(GHQ)により、学校部活動中心のスポーツ政策が行われていくが、当時の極東問題から「オリンピック至上主義」に修正される。1950 年代は至上主義がさらに強化され、スポーツの大衆化は口だけ状態に陥ってゆく。1960 年代もスポーツ振興法が出されるが、実行にまで至っていない。実行されるのは 10 年後(1970 年代)である。

3. ドイツと日本の国民性、意識、生活様式について

①食文化

ビールやワイン関連の話から、ドイツ人は法律を守り、伝統を重んじ、整理整頓好きな人達である。一方、他の国からの様々な料理文化が入ってくる中で、それを取り込みつつも自国の食文化を衰退させない日本は、異文化をうまく受け入れる柔軟な態度が垣間見られる。

②食生活

ドイツ人は家庭料理をととても大切にしている。仕事が終われば真っ先に家に帰り、家族との団欒を楽しむ。一方、日本人は仕事が終わっても上司や同僚と食事をしにいく傾向から、つながりを大事にする人達であるといえる。

③国民性

隣人関係の問題でも、中途半端が嫌いで、法の裁きを求めるドイツ人に対して、日本人は「水に流す」という曖昧な対処の仕方をする。

教育に関しても違いが見られる。ドイツでは数年間担任が同じな為、生徒一人ひとりの個性が尊重される教育制度となっている。一方日本は、「不言実行」「沈黙は金」など、みなと一緒にでなければならないという考えが染みついている。学校でも生徒全てを一つの枠の中に治めようとする。

④愛国心

戦前のドイツは、国家の数でいえば約 300→39→2→2→1→3 と変化している。また総合型地域スポーツクラブが各州で発達しており、クラブ自身が運動体となって自州をよくしていこうという考え方がある。この二つから郷土への愛情が垣間見られる。一方、日本は島国であり、国境が現在まで変化していない。その点から愛国心があるようにも思えるが、それはスポーツの国際大会の時のみであり、その熱は一時で終わってしまう。

若者の政治の関心離れからも愛国心が強いとは考えにくい。

⑤気候・地形

ドイツは基本的には温帯気候であり、地形は広大な平地はなく、凹凸が激しい地形となっている。一方、日本は四季がはっきりしており、気候も北海道から沖縄まで分かれている。地形も山地・火山地 60% となっており、ドイツと気候面も差異がなく、地形も恵まれてはいない。

4. 比較・まとめ

ドイツと日本の食文化・食生活、愛国心、生活様式を比較すると、全てが「国民性」の違いへと結びつく。また、1950 年代から市民に対するスポーツ政策を行ってきたドイツに比べ、1970 年代にやっとスポーツ政策が出来始めた日本は、明らかに動き出しが遅いと考えられる。よって「ドイツの早期スポーツ政策」と「国民性」の 2 つがメダル獲得数に違いをもたらす最大決定要因と考えられる。